



長岡赤十字病院
整形外科専門研修プログラム

目次

1. 長岡赤十字病院 整形外科専門研修の理念と使命
2. 整形外科研修後の成果
3. 整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4-1 基本方針
 - 4-2 研修計画
 - 4-3 研修およびプログラムの評価計画
 - 4-4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
 - 4-5 整形外科研修の中止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件
 - 4-6 修了要件
5. 長岡赤十字病院整形外科専門研修プログラム連携施設
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
8. 専門研修プログラムの改善方法
9. 専攻医の募集人数と応募方法

【1 長岡赤十字病院 整形外科専門研修の理念と使命】

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められています。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関する基本的・応用的・実践能力を教育し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献できるように貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければならない。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、地域住民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

長岡赤十字病院整形外科専門研修プログラムは、この研修目標を達成するための教育・研修環境を提供し、専攻医の能力を最大限に引き出します。

【2 専門研修後の成果】

本プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- ① 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- ② 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- ③ 診療記録の適確な記載ができること。
- ④ 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- ⑤ 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- ⑥ チーム医療の一員として行動すること。
- ⑦ 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- ⑧ 地域医療の重要性を十分に理解し、地域住民の健康維持向上に貢献すること。

【3 専門研修プログラムの目標と特徴】

長岡赤十字病院は新潟県中越地区における三次救急を含めた地域中核病院であり、県内で稼働している2機のドクターヘリの拠点の一つでもあることから、救急科とともに重度外傷を含めた様々な外傷・急性期治療を経験できます。また、重度外傷だけではなく一般的な一次・二次外傷にも幅広く対応しており外傷を含む急性期疾患に関しては偏りなくほぼすべてを経験することが可能です。それらに対応する各分野に指導医が常駐しているため研修として初歩的な外傷から段階的に経験を積むことができます。

脊椎・リウマチ・手外科のサブスペシャリティ領域には各専門医が常駐し、変性疾患にも積極的に手術治療を行っており県内有数の手術件数となっています。初期研修としてほぼすべての領域に携わることが可能であり整形外科医としての基礎を築くための最適な環境を提供できると思います。

また連携施設の新潟大学医歯学総合病院には、リウマチ、小児整形、腫瘍、リハビリテーションの専門医が指導医として勤務しており、最新の治療を経験することが可能です。

長岡赤十字病院整形外科週間予定

	月	火	水	木	金
朝	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討
午前	外来・病棟	病棟・手術	外来	病棟・手術	病棟・手術
午後	手術	手術	手術	手術	手術

【4 研修方法】

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準 付属資料

(日本整形外科学会 HP) <https://www.joa.or.jp/edu/index.html>

4-1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、長岡赤十字病院および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年次毎の到達目標と専門技能習得の年次毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会会員マイページを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また、指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終え

た後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4-6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第三者機関の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4-2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得する研修を行います。整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識技能習得状況を6か月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、目標未達の分野があれば、取得単位調整・指導を行います。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識技能習得状況を6か月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、目標未達の技能があれば、取得単位調整・指導を行います。

- ③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等）
経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を長岡赤十字病院および連携施設で偏りがないように経験することができます。
- ④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス
各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会は全ての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。
- ⑤ リサーチマインドの養成計画
すべての専攻医が自らの症例の報告や、各病院の症例を用いて研究した成果を、地方会を含めた色々な学会や研究会で最低年1回発表する機会を作ります。研究指導は各施設の指導医が行います。
- ⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）
専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。
- ⑦ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）
整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識、技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始してもコアコンピテンシーを習得させることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックすることによってコアコンピテンシーを早期に獲得させます。
長岡赤十字病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。
- ⑧ 地域医療に関する研修計画
長岡赤十字病院整形外科専門研修プログラムは新潟県の地域に根ざした研修プログラムであり、ほとんどの研修課程で周辺の医療施設との病病・病診連携を経験・習得することになります。
- ⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について
整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムはこ

これらのサブスペシャリティ領域の専門研修施設である新潟大学医歯学総合病院と連携、さらに関連する多くの施設でサブスペシャルティ領域専門研修認定を受けているため継続的に整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を前倒して支援します。

4-3 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を、6か月に1回行い、(9月末および3月末)専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた長岡赤十字病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

② 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

年2回の定期委員会を開催します。また、必要時に臨時委員会を開催します。2月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。活動報告および専門研修プログラムは長岡赤十字病院ホームページで公開します。

③ プログラムとしてのFD(Faculty Development)及びその改善計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」(日本整形外科学会ホームページ参照)に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。専門研修プログラム管理委員会の年1回定期委員会にてプログラムの改善できる点を検討し、必要に応じて改定します。

4-4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者と面談し、改善を指導します。

4-5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6か月以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。傷病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。また研修の休止期間が6か月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合があります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4-6 修了要件

- ① 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
 - ② 行動目標の全ての必修項目について目標を達成していること
 - ③ 臨床医として十分な適性が備わっていること
 - ④ 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること
 - ⑤ 1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。
- 以上1～5の修了認定基準をもとに、専門研修4年目の2月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

【5 長岡赤十字病院整形外科専門研修プログラム連携施設】

本プログラムの連携施設群

長岡赤十字病院整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りで、専門研修連携施設の認定基準を満たしている。連携施設は以下の11施設である。当プログラムでは長岡赤十字病院を1年、新潟大学医歯学総合病院を6か月から1年、それ以外の期間については他の連携施設での研修も可能である。

I型基幹施設：新潟大学医歯学総合病院

II型基幹施設：新潟市民病院、長岡中央総合病院、魚沼基幹病院

連携施設：新潟県立中央病院、立川総合病院、新潟医療センター、新潟中央病院

新潟県立新発田病院、柏崎総合医療センター、佐渡総合病院

特徴ある連携施設の紹介

【新潟大学医歯学総合病院（Ⅰ型基幹施設）】

新潟大学整形外科学講座は、大正6年（1917）本邦で4番目に開講し、2017年に開講100年目を迎えた国内有数の伝統教室であり、これまでも多数の優秀な整形外科医を輩出してきた。整形外科指導医は19名在籍している。大学院進学やサブスペシャリティ研修制度があり、本研修プログラム終了後に進むことが可能である。

【新潟市民病院（Ⅱ型基幹施設）】

全ての運動器疾患・外傷に対し高いレベルの急性期治療を行うことを理念としております。救命救急センターを併設した当院には重症外傷や重症運動器疾患が多数受診されます。救命科を始めとする他科と協力し、救命を目指しながら回復後に最大限の機能回復が得られるような治療を行っています。脊椎手術や人工関節手術、手の外科手術にも力を入れています。

【長岡中央総合病院（Ⅱ型基幹施設）】

長岡市及び新潟県中越地区の中核病院として外傷（スポーツ外傷を含め）、変性疾患等幅広い整形外科疾患に対応しています。整形外科医は9名で内8名が日本整形外科学会専門医で、指導医は6名です。外傷を含め手外科2名、脊椎外科4名、膝・肩関節2名、後期専攻医1名で診療を行っています。一般外傷はもちろんですが、手の外科専門医、脊椎脊髄外科指導医、公認スポーツドクターのもとで専門分野の研修が可能です。基本的には研修医に積極的に執刀医となってもらう方針です。多様な症例と多くの手術症例がありバランスのとれた研修ができます。また当院は特定機能病院として内科はじめ他科も充実しており、合併症をもった症例にも対応でき、幅の広い研修が可能です。

【魚沼基幹病院（Ⅱ型基幹施設）】

当院は新潟大学地域医療教育センターの役割をもち大学病院をはじめとする教育機関で長年勤務していた指導医が整形外科のみならず多くの診療科で診療と研究、教育をしています。新幹線浦佐駅の近くにあり、整形外科医常勤9人で多数の症例の外来診療と手術を経験できます。脊椎、上肢、下肢、腫瘍、リウマチ、スポーツといった領域のスペシャリストが丁寧な指導を心がけています。新潟大学と親密に連携をとり、大学病院からの専門医の応援を常に受けています。3次救急や高度医療を救急医や他科の医師と協力して行う一方で、地域の患者さんのプライマリーケアを経験できる総合病院です。スキー場に病院から5分で到着でき、周囲には登山や自転車で大自然を心ゆくまで楽しめるフィールドが広がっているのも大きな魅力です。

【新潟中央病院】

整形外科指導医は計 8 名おり、指導可能な研修はリウマチ・腫瘍以外の全 7 領域です。急性期（一次、二次救急）から慢性期へと各領域にスペシャリストが複数おり、しかも整形外科だけで年間手術件数は 2,597 件（2021 年度：上肢 951 件、下肢 806 件、脊椎 888 件）と非常に多いため、幅広い、しかも深みのある経験ができます。手術室は 7 部屋（うちクリーンルーム 1 部屋）あり、平日の朝から夕方までほぼフル回転で稼働しております。リハビリテーションのスタッフは 30 名以上おります。国内外の学会活動も盛んに行っています。院内保育も完備しており、安心して研修に集中できます。

整形外科専門医 12 名が在職し、脊椎、手外科、関節外科、外傷、骨粗鬆症、リハビリを分担しています。研修医は救急・外傷患者の診療が主になりますが、若い方の新しい発想、先端医療の導入に対してベテラン医師も柔軟に対応しております。

【新潟県立新発田病院】

当院は救命救急センターを併設し県北地域の広域基幹病院として 24 時間体制で救急医療に対応しております。整形外科医 10 名が常勤し、うち 7 名が日本整形外科学会専門医です。大腿骨近位部骨折は年間 200～250 例に達し、他の外傷も非常に多いことから、指導医のもと専攻医が執刀する機会に恵まれております。ほかにも、脊椎・手・股関節・膝関節・スポーツ傷害の症例に対しても専門医による指導を受けることができます。

【新潟県立中央病院】

救急救命センターを併設し上越地域の 3 次救急を行っています。重傷患者の全身管理は救急科 Dr と連携して行っています。

多くの外傷治療を経験できますし、各専門分野に精通した整形外科医が常勤し、整形外科のほぼ全領域にわたり研修が可能です。

院内連携と地域連携がよいことも特徴のひとつです。

例えば、大腿骨近位部骨折は年間 220 例ほどですが、受診後 48 時間以内に 84% の症例で手術治療が行われ、3 週間以内に回復期病院へ転院しています（2022 年）。

2012 年から院内と地域で取り組んでいる 2 次骨折予防により 2 次骨折発生率は着実に低下しています。

【魚沼基幹病院】

当院は新潟大学地域医療教育センターの役割をもち大学病院をはじめとする教育機関で長年勤務していた指導医が整形外科のみならず多くの診療科で診療と研究、教育をしています。新幹線浦佐駅の近くにあり、整形外科医常勤9人で多数の症例の外来診療と手術を経験できます。脊椎、上肢、下肢、腫瘍、リウマチ、スポーツといった領域のスペシャリストが丁寧な指導を心がけています。新潟大学と親密に連携をとり、大学病院からの専門医の応援を常に受けています。3次救急や高度医療を救急医や他科の医師と協力して行う一方で、地域の患者さんのプライマリーケアを経験できる総合病院です。スキー場に病院から5分で到着でき、周囲には登山や自転車で大自然を心ゆくまで楽しめるフィールドが広がっているのも大きな魅力です。

【柏崎総合医療センター】

整形外科常勤医 4 名、うち専門医 3 名。非常勤専門医 2 名で診療を行っております。非常勤専門医はそれぞれ大学病院で腫瘍、脊椎脊髄の指導をしている医師（川島教授、大橋助教）であり、専門性の高い症例の経験も可能です。柏崎医療圏で唯一整形外科常勤医がいる地域中核病院であるため、圏域内の整形外傷、整形疾患はほとんどが当院に集まり、非常に豊富でバランス良く多岐にわたる症例を経験できます。年間手術件数は外傷を中心に 約 1000 件で、医師一人あたりの手術件数は県内トップクラスですが、コメディカルとのチームワーク、医療クラークへのタスクシフティングで、多忙になりすぎることなく効率的に質の良い医療を提供しています。多くの標榜科がそろった総合病院で、他科や他職種、多職種との連携が取れている働きやすい病院です。

専門研修施設の新患患者数、手術一覧

施設名称	指導医数	年間新患数	手術数								合計
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	
長岡赤十字病院	7	2,722	305	77	134	1,152	71	0	66	43	1,848
新潟大学医学総合病院	19	965	298	77	188	228	25	45	44	165	1,070
新潟市民病院	5	1,675	293	124	330	481	15	14	34	17	1,308
新潟県立中央病院	6	1,743	79	344	373	197	18	49	34	17	1,111
魚沼基幹病院	5	3,106	237	81	192	622	12	34	22	85	1,285
立川総合病院	3	1,967	0	197	288	523	0	28	16	10	1,062
新潟医療センター	2	1,584	0	150	215	82	0	229	31	1	708
長岡中央総合病院	6	3,511	309	421	217	442	2	113	7	8	1,519
新潟中央病院	8	5,058	881	456	501	818	10	56	51	19	2,792
新潟県立新発田病院	5	2,804	172	71	244	534	0	30	0	15	1,066
柏崎総合医療センター	1	1,614	63	192	105	422	0	33	0	26	841
佐渡総合病院	1	3,251	18	162	71	491	2	12	2	4	762
合計	68	30,000	2,655	2,352	2,858	5,992	155	643	307	410	15,372

専門研修施設の指導医、研修領域

医療機関	指導可能な研修領域										指導医数
	背椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療	
長岡赤十字病院	●	●	●	●	●		●		●	●	7
新潟大学医歯学総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●		19
新潟市民病院	●	●	●	●	●	●			●	●	5
新潟県立中央病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
魚沼基幹病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5
立川総合病院		●	●	●		●			●	●	3
新潟医療センター			●	●		●			●		2
長岡中央総合病院	●	●	●	●		●			●	●	6
新潟中央病院	●	●	●	●		●	●		●		8
新潟県立新発田病院	●	●	●	●		●		●	●		5
柏崎総合医療センター		●	●	●					●	●	1
佐渡総合病院		●		●						●	1

ローテーション例

	1年目	2年目	3年目		4年目	
専攻医A	長岡赤十字病院	長岡中央総合病院	新潟大学	魚沼基幹病院	立川総合病院	県立中央病院
専攻医B	長岡赤十字病院	新潟市民病院	新潟大学	県立新発田病院	柏崎総合医療センター	新潟医療センター

指導医と担当指導分野一覧

施設名	指導医名	分野1	分野2	分野3
長岡赤十字病院	羽生 忠正	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	井村 健二	下肢	外傷	リハビリ
長岡赤十字病院	三浦 一人	背椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	森田 修	背椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	根津 貴広	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	川嶋 禎之	下肢	小児整形	地域医療
長岡赤十字病院	川瀬 大央	上肢・手	外傷	下肢
長岡赤十字病院	大溪 一孝			
新潟大学医歯学総合病院	川島 寛之	腫瘍	上肢・手	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	渡邊 慶	背椎	外傷	小児整形
新潟大学医歯学総合病院	近藤 直樹	リウマチ	上肢・手	下肢

新潟大学医歯学総合病院	村上 玲子	小児整形	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	有泉 高志	腫瘍	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	谷藤 理	下肢	外傷	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	普久原 朝海	外傷	上肢・手	下肢
新潟大学医歯学総合病院	今井 教雄	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	大橋 正幸	脊椎	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	望月 友晴	下肢	上肢・手	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	依田 拓也	上肢・手	外傷	小児整形
新潟大学医歯学総合病院	田仕 英希	脊椎	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	鈴木 勇人	下肢	外傷	小児整形
新潟大学医歯学総合病院	古賀 寛	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	堀米 洋二	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	渡邊 要	上肢・手	下肢	外傷
新潟大学医歯学総合病院	木村 慎二	リハビリ		
新潟大学医歯学総合病院	牧野 達夫	脊椎	外傷	
新潟大学医歯学総合病院	湊 圭太郎	脊椎	外傷	
新潟市民病院	瀬川 博之	下肢	リウマチ	スポーツ
新潟市民病院	山下 晴義	上肢・手	外傷	リハビリ
新潟市民病院	庄司 寛和	脊椎	外傷	リハビリ
新潟市民病院	石川 裕也	脊椎	リウマチ	地域医療
新潟市民病院	酒井 芳倫	下肢	外傷	地域医療
県立中央病院	荒井 勝光	リウマチ	上肢・手	下肢
県立中央病院	小泉 雅裕	上肢・手	外傷	小児整形
県立中央病院	保坂 登	脊椎	外傷	リハビリ
県立中央病院	藤川 隆太	脊椎	外傷	腫瘍
県立中央病院	植木 将人	上肢・手	外傷	地域医療
県立中央病院	富山 康行	下肢	外傷	スポーツ
魚沼基幹病院	生越 章	腫瘍	小児整形	地域医療
魚沼基幹病院	平野 徹	脊椎	外傷	リハビリ
魚沼基幹病院	白旗 正幸	上肢・手	外傷	リウマチ
魚沼基幹病院	目良 恒	下肢	スポーツ	地域医療
魚沼基幹病院	上村 一成	上肢・手	外傷	
立川総合病院	二宮 宗重	上肢・手	外傷	スポーツ
立川総合病院	田窪 良太	下肢	リハビリ	地域医療
立川総合病院	奥村 剛	上肢・手	外傷	リウマチ
新潟医療センター	佐藤 卓	下肢	スポーツ	リハビリ
新潟医療センター	渡辺 聡	下肢	外傷	スポーツ
長岡中央総合病院	高橋 一雄	脊椎	外傷	地域医療
長岡中央総合病院	矢尻 洋一	脊椎	外傷	リハビリ

長岡中央総合病院	善財 慶治	上肢・手	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	浦川 貴朗	脊椎	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	村山 敬之	下肢	外傷	スポーツ
長岡中央総合病院	八幡 美緒	脊椎	リハビリ	地域医療
新潟中央病院	柴田 実	上肢・手	外傷	小児整形
新潟中央病院	山崎 昭義	脊椎	外傷	スポーツ
新潟中央病院	松枝 宗則	下肢	外傷	スポーツ
新潟中央病院	勝見 敬一	脊椎	外傷	小児整形
新潟中央病院	井上 旬二	下肢	リハビリ	外傷
新潟中央病院	早川 敬	上肢・手	外傷	スポーツ
新潟中央病院	畠野 義郎	上肢・手	外傷	スポーツ
新潟中央病院	溝内 龍樹	脊椎	外傷	リハビリ
県立新発田病院	三輪 仁	上肢・手	外傷	スポーツ
県立新発田病院	佐藤 剛	脊椎	外傷	腫瘍
県立新発田病院	須田 健	下肢	外傷	スポーツ
県立新発田病院	白野 誠	下肢	外傷	地域医療
県立新発田病院	穂苅 翔	下肢	外傷	スポーツ
県立新発田病院	澁谷 洋平	脊椎	外傷	
柏崎総合医療センター	津吉 秀樹	上肢・手	外傷	地域医療
佐渡総合病院	生沼 武男	上肢・手	外傷	地域医療
佐渡総合病院	勝見 亮太			

【6 専門研修プログラムを支える体制】

① 専門研修プログラムの管理運営体制

Ⅱ型基幹施設である長岡赤十字病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために長岡赤十字病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を設置します。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。

② II型基幹施設の役割

II型基幹施設である長岡赤十字病院は、専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

長岡赤十字病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるように専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行えるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専攻医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行います。
- 6) 長岡赤十字病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。長岡赤十字病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である長岡赤十字病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

長岡赤十字病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

【7 専門研修実績記録システム、マニュアル等について】

1) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を web 入力で行います。

2) 人間性などの評価の方法

指導医は資料3「整形外科専門研修カリキュラム」(の「医師の法的義務と職業倫理」)の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある資料10「専攻医評価表を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

3) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した資料7「カリキュラム成績表」、資料8「指導医評価表」、資料9「専攻医取得単位報告書」、資料10「専攻医評価表」、資料12「整形外科指導医マニュアル」、資料13「整形外科専攻医研修マニユア

ル」を用います。資料7～10は整形外科専門医管理システムを用いて web 入力することが可能です。

4) 指導者研修計画 (FD) の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

【8 専門研修プログラムの改善方法】

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

資料8「指導医評価表」を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることのないように保障します。

② 専攻医等からの評価をシステム改善につなげるプロセス

資料8「指導医評価表」は、研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出します。研修プログラム委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③ 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医および専攻医は真摯に対応し、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

【9 専攻医の募集人数と応募方法】

<専攻医受入数>各年次2名 合計8名

<応募方法>

応募に必要な以下の書類を郵送にて下記にお送りください。

必要書類の一部は下記ページよりダウンロードしてください。

長岡赤十字病院 専攻医募集案内ページ

<http://www.nagaoka.jrc.or.jp>

必要書類

- 研修申込書（ダウンロード）
- 医師免許証（コピー）

<募集期間> 10月上旬から 10月中旬（予定）

<問い合わせ先>

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2 丁目 297 番地 1

長岡赤十字病院 教育研修推進室

TEL : 0258-28-3600

FAX : 0258-28-9000

Mail : kensyu@nagaoka.jrc.or.jp

<病院見学の申し込みについて>

長岡赤十字病院では、随時、病院見学希望を受け付けております。

ホームページよりお申込ください。